

2026 年 10 月

【1 分解説】ハイパースケーラーとは？

経済調査部 シニアエグゼクティブエコノミスト 新家 義貴

ハイパースケーラーとは、世界規模で巨大なクラウドサービスやデータセンターを運営する事業者を指します。「hyper（超）」と「scale（規模）」を組み合わせた言葉で、需要に応じて IT 基盤を大きく拡張できることが特徴です。単に規模の大きな IT 企業というだけでなく、膨大なサーバーや通信設備を持ち、利用量の急増にも柔軟に対応できます。

顧客企業は、自前で大量のサーバーを用意しなくても、必要なときに必要な分だけ計算能力や保存容量を利用できます。こうしたクラウド基盤は企業のデジタル化を支えてきましたが、生成 AI の普及で計算需要が急増し、その重要性は一段と高まっています。生成 AI の開発や利用には膨大な計算能力が必要なため、ハイパースケーラーは高性能半導体やデータセンターへの巨額投資を進めています。

その影響は IT 業界にとどまりません。ハイパースケーラーによる投資は半導体、建設、通信、冷却設備、電力インフラなど幅広い分野に波及し、特に米国では設備投資や景気を左右するものとして存在感を強めています。

一方で、巨額投資に見合う収益を将来確保できるのか、電力供給や送電網が投資拡大の制約にならないかといった課題もあります。ハイパースケーラーの投資動向は、AI 関連需要の強さを映すとともに、半導体、建設、電力など幅広い分野の投資を通じて、米国を中心とする景気の先行きをも左右する重要な要素として注目されています。